

第 4 次中期経営計画（H15～H17 年度）について

・経営環境認識及び計画策定の考え方

国内需要低迷の長期化、国際商品化に伴うスクラップ価格の変動等、経営環境は不透明感を増している。

当中期期間を「より強い大阪製鐵」を目指した体質強化期間と認識。いかなる経営環境変化にも耐え得る強固な経営基盤を構築する。

・財務目標

	17 年度計画		14 年度実績	
	連結	単独	連結	単独
ROS	8.0%	8.5%	2.8%	2.8%
ROA	5.0%	4.4%	1.8%	1.6%
借入金残高	0	0	39 億円	0

・体質強化の柱と主要施策

1. 営業戦略

- (1) 国内需要に見合う生産・販売に徹し、高スクラップ価格下においても一定のマージン（販売価格 - スクラップ価格）を確保するマーケット戦略を実行
- (2) 鋼材輸出及び鋼片外販を推進
- (3) 高付加価値商品を中心とする新商品開発等を通じたマーケット展開・拡販

2. コスト競争力

トップレベルのコスト競争力、生産弾力性、及び前中期で整備した堺、恩加島、西日本製鋼所 3 工場での最適生産体制を更に強化し、いかなる生産量下でも確実に収益確保できる生産・コスト構造を確立。

- (1) 生産性向上、品質対応力強化、物流改善等による一貫最適操業体制の強化
 - ・ 堺 工 場 ～ 製鋼 T/CH アップ、CC 高速操業化等による生産性向上を通じ、生産弾力性アップをベースとした最適操業体制構築。
 - 汎用品コストを抜本的に強化。

- ・ 恩加島工場 ~ ミニマムシフト下での徹底した固定費削減、高付加価値品質対応力・開発力強化等により、効率的な少量・高付加価値製品生産体制の強化。
- ・ 西日本製鋼所 ~ 中間圧延機更新等による圧延 T/H 向上を通じ、製鋼・圧延一貫直行体制を構築。最強コスト競争力の更なる強化。

(2) 労働生産性の一層の向上

- ・ 14 年度末 499 人 17 年度末 400 人 20 %
 <参考> 前中期 11 年上末 729 人 14 年度末 499 人 32 %達成

(3) 外部調達コストの一層の削減

3. 企業基盤整備

- (1) 集塵機増強等の環境対策、電気系重要設備等の老朽更新対策を計画的に実行。
 企業としての生産基盤整備を着実に推進。
- (2) 品質 ISO9001 に続き、環境 ISO14001 を H15 年度中に取得予定。

4. 設備投資

生産性向上、省力化対策投資に加え企業基盤整備に向けた投資を着実に実行。
 投資額：約 60 億円 / 3 年〔減価償却費 約 90 億円 / 3 年〕
 <参考> 前中期投資額 約 48 億円 / 3 年

5. 財務体質改善

- (1) 単独借入金ゼロ化 (H14 年度完了) に続き、収益確保及びグループ内キャッシュマネジメント等を通じた連結借入金 (14 年度末残高 39 億円) ゼロ化。
- (2) 堺工場の減価償却方法を定率化し、財務課題への対応をほぼ完了。

<参考> これまでの財務課題対応

- ・ 単独借入金ゼロ化
- ・ 企業年金予定利率 1.5%化
- ・ グループ内ファイナンス体制整備
- ・ 棚卸資産の時価評価による含み損解消 他

6. グループ連結経営

日本スチールは平鋼業界における最強競争力確保、新北海鋼業は北海道における拠点としての役割強化等、グループ各社の役割分担に基づく競争力強化と連携を通じた連結経営の一層の強化。

以 上